

なくそう貧困。命の水を！

# アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2018年冬

132



特集 アジア国際ネットワークセミナー

の里保高会





since 1979  
公益社団法人アジア協会アジア友の会  
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

# JAFS



## 目次

「巻頭言」私民から市民へ-地区活動に思う 02

特集=アジア国際ネットワークセミナー

かやぶきの里に地域おこし学ぶ 04~07

「美山に来てよかった」絶賛の声 07・08

海外からの参加者に聞く 08・09

海外からの報告 10~14

インドの学校教育プログラム/AFSスリラン

カ部会が発足/地域と人々支えるルソン

島の竹林/ネパールにJAFSの拠点事務所

/ネパールに根を張り復興支援

熊本地震から1年半 15

井戸寄贈報告 16~21

「JAFS プラザ」=国内の活動 22~25

アジアン・チャリティ・フェスティバル/

社員クラブ復活/食事を楽しみながら国際

協力/比ストリートチルドレン勉強会 他

パプアニューギニアで人間回帰を思う 26

「新・The 社会貢献」法人紹介 27

新入会員紹介・領収報告 28・29

「里子の笑顔」「アジアの友から」 30

「環境コラム」 31

## アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体 (NGO) です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、井戸建設 (累計1898基) や植林 (累計250万本)、子ども教育支援を中心に活動しています。

全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <http://jafs.or.jp>

## 本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費 (社員会費は除く) は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置 (寄付金控除) を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

## 巻頭言

現代は無数の欲望が人々を駆り立てている時代です。ある経済学者は、「経済が社会を破壊する時代になった」と現代の風潮に警告を發しています。高度消費社会において、市民性が、個人主義的消費者によって希薄化されたといわれています。市民意識が喪失した場合、各人は自分の思い通りに生き、公共の利益を犠牲にしてまで自己利益の追求に走りまわります。個人の選択の自由が、市場経済によって生み出される豊富な商品への遠慮のいらぬ選択の自由へと結実し、人々は理想を求め政治よりも快楽的生活を保障してくれる現実の経済へ望みを託します。

## 私民から市民へ地区活動に思う



村上 公彦  
アジア協会アジア友の会  
創設者・事務局長

政治から経済へ移行することは、命 (人間) よりも財 (利潤) が優先される環境を作り出すことになり、個人主義に拍車をかけていきます。ここでは、「カネ・金」に代表される「財・富」が全能の力を持ち、人々はいっしょにその力に仕える者 (経済の奴隷) となるのです。こうした社会では僅かな富への満足により、「より良い社会に向けて」という人間精神の覚醒や変革への意欲は起こらないどころか、「私民」化よりさら

に悪い状況、もの言わざる人間の「死民」化が進行していく状況を作り出していく恐れがあります。ここで改めて思うのが、本会のよきな社会団体の役割についてです。本会は地球運命共同体の視点から、人間の命を守るという目的で、アジアの極貧の中に暮らす人々への支援を目的としています。ただ必要資金を手に入れればよいというわけではありません。困っている人への奉仕活動を通じて、お互いの命の大事さを確認するという役割があります。多くの人は、自分自身をこの世の価値に追従・順応させ、命の崇高な任務に関心を持つ余裕がないようです。それは結局、自分のかけがえない命の価値を自ら低めていることになり、命の崇高な任務とは、困っている人を助けることです。

## プロフィール

むらかみ・きみひこ 1941年大阪府生まれ。65年同志社大学大学院修士課程修了。65~67年インド留学。70~71年ジュネーブ大学エキュメニカル研究所留学。79年JAFS創立。2009年タイ国立ランパーン・ラジャパット大学より名誉博士号授与。現在、日本キリスト教団豊屋川教会牧師。

わたしたちは「渇くアジアと世界に水を！」を合言葉に、飲料水に悩むアジアの貧しい人々に水を支援するため「井戸を贈る運動」を拡げて来りました。本会の地区活動の一つの使命は、国際協力ボランティア活動を通じて「私民」が社会の一員としての「市民」に目覚められる機会を作ることであると思います。今後は、困っている人々への支援の輪を拡げるため、それぞれの地区が中心になって、善意をくみだす「心の井戸」へ「善意の友の輪」を日本の各地に掘っていきたいものです。

## JAFS 会員綱領

- 一、私たちは、世界の平和と人間の基本的な人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。
  - 一、かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。
  - 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
  - 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
  - 一、地球の自然環境を大切に守ります。
  - 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
  - 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
- 以上



# かやぶきの里に地域おこし学ぶ



「かやぶきの里」を訪れ、記念撮影したアジア国際ネットワークセミナーの参加者たち 10月19日、京都府南丹市美山町

アジアで草の根の支援活動に取り組むNGO、NPOが明日への課題を話し合う「第27回アジア国際ネットワークセミナー」（JAFS主催）が2017年10月17日から21日まで大阪、奈良市内で開催された。今年のテーマは「グローバル時代における地域経済と地域文化の存続を巡って」。若者が都市へ流出して衰退する地域をどうやって活性化させるのかを探った。参加者は日本、インド、タイ、フィリピンなどから計約100人。地域おこしのモデル地域として京都府南丹市

## エコツーリズム推進を宣言

美山町の「かやぶきの里」を訪ねた。年間90万人の観光客を呼び込んで過疎の町を一躍、観光地に変貌させた美山町の取り組みに感銘を受け、「美山町の手法を参考にアジア各地でエコツーリズムによる地域おこしを」との大会宣言を採択。地域開発、地場産業の育成、教育、環境、若者の5つの分野で実行委員会を設けて地域おこしに全力投球することを確認した。来年のセミナーはマレーシアで開催されることが決まった。（JAFS常任理事・広報企画委員長 法花敏郎）

セミナー参加者の内訳はインド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、中国の13カ国71人に日本のJAFSメンバーら35人を加えた106人。開会式は10月17日、大阪・天満橋の大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）で開かれた。

### 人間の生きる原点考えよう

あいにくの雨の中、前夜から大阪入りした海外の一行がバスで到着した。JAFSの萩尾千里会長が「貧困なきアジア社会の創造のために活動してい

る皆さん、建設的な論議を」と力強く開会を宣言。JAFS創設者の村上公彦事務局長がセミナーの開催趣旨を説明し、「貧困は所得の不平等が根底にあります。経済問題だけでは解決しない。地域の文化と人々の暮らしの中で考えることが大切です。命とは、幸せとは何か。アジアの仲間との交流の場で人間の生きる原点をともに考え、人々の幸せのために連携して行動する意欲をわかせるのがセミナーの狙いです」と述べた。

三輪敦子・ヒューライツ大阪所長が「持続可能で豊かな地域づくりのため女性の貢献とリーダーシップ」について講演。日本赤十字社でネパールの水供給事業に関った体験から人と水の間には切っても切れない関係があること、途上国の幼い子供が命を落とす理由は「呼吸器感染症」（風邪）と下痢

であること、下痢で失われた水を体内に補給するきれいな水の確保が女性の重要な仕事であることを強調。町村長、自治会長など「長」の付く仕事は男性が占める事が多く、どうしても女性は見えなくなりがちである。こうした現状を打破するには女性を見えるようにすること（可視化）、女性のリーダーシップを育むことが重要になる。それには元内閣府男女共同参画局長・坂東真理子さんの言葉、「女性を育てる3つの『き』」（期待、機会、鍛える）の実行が必要だ。つまり、女性は期待され、機会を得て、鍛えられることによって伸びる——と話した。

もう一人の講演者、インド・ヒュールアンベダカル社会大学のディリップ・バルサガデ准教授は「インドの少数民族居住区の女性の自立への取り組み」について講演。人口の8割が少数民族で森の中で生活するインド・マハラシュトラ州のガッチロリ地区などでの取り組みを紹介した。少数民族の住む地域では識字率が低いハンディはあるものの、女性たちが率先して早朝から薬草や野生の果物の採取に出かける。木の花のジャム、竹を編んだ工芸品づくりなどの事例を写真で紹介。

### 5つの分野で白熱した討議

本セミナーは「貧困なき一つのアジア」の実現を基本テーマに掲げているが、今年は地域社会の中で衰退する経済、文化への取り組みについて話し合った。人、モノ、金の流れが国境を越えて押し寄せる中、若者は都会を目指し、地域は高齢化して弱る。平たく言えば、巨大な商業モールの出現でシャッターを降ろす店が多くなった地域の商店街や担い手不足で姿を消すお祭りをどうやって守るのかという問題だ。

一行は討議のあい間にバスで京都府南丹市美山町へ。美山町の「かやぶきの里」の保存の取り組み、それを生かしたツーリズムの現況を地域おこしの

「少数民族の人たちは豊かな森を守ってきた。未開の場所といわれるが、私たちが見習うことは多い。地域社会の発展は女性の参加なしには成し遂げられない」と述べた。

セミナーは奈良市青少年野外活動センターに会場を移し、ここで四泊五日の合宿へ。東海自然歩道・柳生街道に面する雑木林を切り開いた建物で、鉄筋コンクリートの本体に丸太を組み合わせている。部屋は二段ベッドの10人部屋。食事はすべてJAFSボランティアの女性らの手作りだ。センターではバーベキュー、キャンプファイヤー、天体観測、ハイキングが楽しめる。周囲は里山のふもとに集落が広がる。典型的な日本の農村だ。午前6時過ぎ、朝露に濡れた柳生街道を歩くと、つややかな濃い紫色のアケビの実が落ちていた。朝もやの中、セグロセキレイが三羽、飛び立った。





実例として見学した。古いかやぶきの民家や由良川の清流、民泊、雪景色がブームを呼んで年間90万人の観光客がやって来ることを知り、地域おこしの手がかりをつかんだ。

体策がない」との指摘で練り直し。その結果、各分科会が次のような要旨の提言をまとめた。

### ■第27回セミナーで採択された宣言の要旨

1. 貧困は教育の不足、家庭の不和、社会・経済・政治的不平等などによって引き起こされる。よい教育を実現することこそが、地域と全世界から貧困をなくすための根本である。教育は、生活の技術（手に職を持つこと）を向上させ、地場産業を育て、よりよい社会や環境をつくり出し、若者の能力を開発するのに役立てられるべきである。
2. 村は、持続可能な資源や文化に富んだ貴重な存在である。都市と農村のつながりを密接にするためには消費者と生産者の連携が必要であり、エコツーリズム、修学旅行、ホームステイなどの発展によって村を支援できる。地域の文化と資源は、母なる自然を壊すことなく豊かにできる。地域おこしに村人の積極的な参加は欠かせない。以上のことを実行するために、①貧困と地域開発 ②貧困と地場産業の育成 ③貧困と教育 ④貧困と環境 ⑤貧困と若者、の5つの分科会（実施機関）を設ける。

▲合宿して活発に討議する参加者たち 10月18日、奈良市青少年野外活動センター

設、収入の不公平などがある。今後3年計画でユースキャンプの体験を通して若者のやる気を高めるとともに、リーダーシップの育成、貧困層を支援する起業家の育成に取り組む。

5つの分科会では以上の提言を実行するための実行委員会を設置。各分科会の委員長、副委員長、書記を選任した。今後、ネットなどを通してアジアの仲間に必要な情報を提供する。

### 夢基金「2年で500万円」

A F Sの運動の母体である部会（チャプター）がお金を出し合って社会開発基金（アジアフレンドシップ基金・日本名は夢基金）を2010年に設置した。このお金が310万円たまっていくことが報告された。実際に活動を始めるには500万円がいる。そのた

めには部会数の拡大が必要になる。部会設立は会員100人以上と年間3万円の会費納入が条件だ。セミナーでは「2年以内に500万円を集める」とを確認した。

この2年間に提携団体・カリビ財団（フィリピン）代表のジミー・クナナさん、ルディア（インド）代表のブラザー・シンさんから5人が亡くなった。参加者全員が起立し、インドネシアの神父・エカ・サントサさんのリードで故人の冥福を祈った。

論議の疲れをいやし、メンバー相互の交流を深めるために毎夜、「メデイソン・ルーム」（団らん会）が開かれた。学校で病める生徒が保健室にやってくるように、セミナーのメンバーにも休息の場が必要ではないか。そんな発想でスタートした。ただし、この部屋の方箋は薬ではなく各種飲料。参

のリーダー5人（うち2人は女性）からなる専門家集団を設けて地域開発の提言をまとめ、セミナーやワークショップ、井戸端会議で住民に伝える。

【貧困と地場産業の育成】 ナディーム・S・チョードリ委員長（パキスタン）

A F S（アジア友の会）に参加するビジネスマン、実業家が「商工会議所」のような組織を作る。知恵を合わせて安定収入の得られる事業に取り組み、利益の2割をA F Sに提供する。

【貧困と教育】 アントニー・クナート委員長（インド）

教育を高めることにより、雇用が増え生活の質が改善する。そのためには教育家が情熱をもって取り組むこと（教育に情熱を）が必要だ。公教育から落ちこぼれる子供たちの救済が何より重要で、マイノリティ（社会的少数者）の教育支援、若者の技術習得にも力を入れる。

【貧困と環境】 ジェネロサ・コンデス委員長（フィリピン）

自然環境を生かした経済力のある地域づくりを目標に掲げた。そのために農業の多角経営、水質汚染の防止、小口融資を担う地域グループの創設、森林資源の管理強化、グリーンスカウトの導入が必要だ。

【貧困と若者】 デイック・ガレリア委員長（フィリピン）

若者が貧しくなる背景には教育の不足、家族関係の希薄化、不健全な施

加者が持ち込んだ各国のジュース、ビール、ウイスキー、ワイン、日本酒を求めて多くの病人たちがやってきた。タイ・ナン大学のラドム・インセン教授（環境学）のハローモニカ付きギターの伴奏に合わせてポップ・ディランの「風に吹かれて」や坂本九の「上を向いて歩こう」などを全員で歌った。

セミナー4日目の夜ハイライトは「カルチャーナイト」（文化祭）。各国の参加者がお国自慢の歌や踊りを披露した。インドネシアのメンバーはニューギニア島に伝わる戦闘の歌を熱唱。インドやフィリピンのメンバーは着飾った民族衣装で伝統舞踊や歌を披露し、盛んな拍手を浴びた。

セミナーを終えた一行は奈良市内の東大寺南大門や二月堂などを見学。奈良公園のシカとたわむれ、帰国の途についた。

## 「美山に来てよかった」参加者ら絶賛

京都府のほぼ中央にある南丹市美山町は、その名の通り美しい山々に囲まれた山村風景の広がる山間部の集落だ。雨のそぼ降る10月19日、本セミナーに参加したアジア各地のメンバーとともに同町北集落の「かやぶきの里」を訪れた。表紙と3・4ページの写真。過疎化防止のために地域ぐるみで保存し

たもので、ここを拠点に豊かな自然を生かしたエコツアーや特産物の販売に取り組んでいる。過疎の町は一躍、日本の原風景が残る観光地となり、今年90万人の観光客が訪れる。アジアの参加者たちは「地域おこしの素晴らしいお手本。来てよかった」と絶賛。「うちの村でもぜひエコツアーに取り

組みたい」と目を輝かせた。

京都市の中心部から車で一時間余り。小高い連山に囲まれ、山あいをはうように由良川の源流・美山川が流れている。芦生原生林もあり、去年、京都府丹波国定公園に指定された。農林業の衰退でこの半世紀に人口が1万人から4000人に減少。65歳以上の高



齢者が半数近くを占める。「このまま

では町が衰退するばかり」との危機感  
が高まり、町内に残る昔ながらのかや  
ぶき屋根の民家の保存に取り組んだ。

38のかやぶき屋根が残る北集落が  
1993年、国の重要伝統的建造物群  
保存地区に指定された。漬物や佃煮、  
シカやイノシシの肉を使ったカレーな  
どの特産物販売に力を入れ、ログハウ  
スの宿泊施設、露天風呂付浴場もつく  
った。こうした努力によって美山町、  
岐阜県の白川郷と並ぶ観光地として知  
られるようになった。年間90万人の観  
光客のうち、二割が台湾、中国、香  
港、オーストラリアなどからの海外組  
だ。首都圏から修学旅行の生徒もやっ  
て来る、春は桜、夏はアジサイと由良  
川のアユ、秋はコスモス、冬は灯ろう  
に照らされたかやぶき屋根の雪景色が

楽しめる。

地域おこしの中核として設置された  
官民出資の第三セクター「美山ふるさ  
と株式会社」（奥本浩二代表取締役）  
は美山の特産品や牛乳、ケーキの販  
売、芦生の森トレッキング、雪の美山  
のスノーシューハイイク、田舎暮らしの  
ための分譲地販売を手掛ける。売上は  
年々増え、年間5億7000万円に。  
JAFSはこの町で毎年春休みに小中  
学生を対象とした「土と水と緑の自然  
学校」を開いている。

セミナーの参加者たちは北集落で、  
「美山まちづくり委員会」（大野光博  
委員長）の皆さんの出迎えを受けた。  
江戸時代から残るかやぶき屋根の民家  
を地元ガイドの案内で見学。「かやぶ  
き屋根は何年持つの」「屋根をふきか  
えるのかかる費用は」と熱心に質問

していた。

大野委員長と「南丹市美山町平屋振  
興会」の外田誠会長らが美山町の地域  
おこしのこれまでの取り組みを説明し  
てくれた。外田さんは自然環境を生か  
したエコツーリズムの取り組みが20年  
ほど前から日本に浸透したことを指  
摘。「都会生まれの人たちはほとんど  
が自然を知らない。美山の環境と伝統  
を守って都会の人たちをこの地に呼び  
込みたい。環境はお金を生むんです  
ね」と語った。

参加者の一人、タイのムーンチャン  
町の町長のサムレイ・パップポーンさ  
んは美山町の取り組みに大きな刺激を  
受けた。サムレイさんの町でも若者が  
バンコクやチェンマイに出て過疎化が  
進み、7000人の人口が6000人  
に減った。うち、60歳以上が1080

人を占め、高齢化が忍び寄っている。

「わが町はパイヤ、マンゴーなどの  
果物が豊富で、野山も美しい。車で10  
分の隣町には27の古い仏教寺院もあ  
る。美山町のようにエコツアーで観  
光客を呼び込み、人口減に歯止めをか  
けたい。来てよかった」と話した。

フィリピンのアジア社会科学学院（大  
学院大学）副学長、デニス・バトイさ  
んも「大変参考になった。今、海岸の  
近くにいろんな種類のマングローブを  
展示する博物館づくりを計画してい  
る。ここを拠点にしてエコツアーに取  
り組みたい」と話していた。

タイのランパーン・ラタパット大学  
のパクディ・ソラポン教授（ツーリス  
ム論・英語）は「美山町の取り組みを  
学生たちに授業で教えたい。冬の雪景  
色を見に再訪したい」と話した。

## 海外からの参加者に聞く

### これからの活動 方向性が見えた

ジミー・ポントーさん（43）

AFSトモホン（インドネシア）

空手四段で、13歳のお嬢さんも組手



や形のトーナメントで優勝した空手一  
家。現在は旅行会社勤務。学校の課外  
授業や個人レッスンなどで、子どもた  
ちに接する機会が多い。

「スポーツを通して、子どもに社会  
とかかわり方を学んでほしい。ま  
た、環境保全に対する考え方を教えて  
グループを作り、グリーンスカウト運  
動のリーダーを育てたい」

活動地はスラウエシ島北スラウエシ  
州のトモホン市。この5年間でJAF  
Sのワークキャンプ受け入れ5回。貯

水タンク支援と周辺の清掃、植林活動  
をした。

「大切な飲料水源が民間の手で開発  
されて政府と企業が利権を求めて投資  
するのが普通になり始め、コミュニテ  
イベースの共有財産化が難しい。別の  
分野へ活動の舵を切らざるを得なくな  
ったのが現実です」

「今回のセミナーに参加してアジア  
の仲間たちと話ができ、自分の活動の  
方向が見えた気がします。フィリピン  
で行われている環境保全活動などを参

考にしながら、果樹などを含めた植林  
活動を通じた教育活動を実行していこ  
うと思います」



## NGOを起こし

### リーダーを養成

モハメド・アーメッドさん（34）

LEAD Trust（バングラデシュ）

自らLEAD TrustというNGOを運  
営している若手リーダーだ。2004  
年に立ち上げ、現在、スタッフは3  
名、ボランティア協力者は300名を  
数える。今回のセミナーには3名が参  
加した。株式市場への投資で得た利益  
が主要な財源である点は大変ユニーク  
であり、友人からの支援も貴重な財源  
になっている。

宗教を超え、16〜30歳の若者たちを  
対象に3日間で組織リーダーを育成す

る実践的な教育をしており、人材育成  
は最も重要な活動だ。スラムの子ども  
たちの衛生教育、農村の子どもの  
教育支援、永続可能な組織を担う女性  
対象の教育など、様々な教育活動もし  
ている。「JAFS村上事務局長をメ  
ンター（指導者）として募って、ビジ  
ネスモデルとして多くのことを学んで  
います。今後は、農村地区住民のため  
の血液検査や子どもたちのしつけ教育  
など、衛生教育と次世代教育に力を入  
れていく予定です」



### 町の大規模校で 栄養改善の活動

### ドナルド・アントイさん（29）

AFSパンダン（フィリピン）

パナイ島パンダン町在住で学校の先  
生だ。JAFSとの歴史的な水道事

業、水源の森植林活動でよく知られた  
町。今回のセミナーを機にレポートを  
寄せてくれた。

「AFSパンダンは、貧しいと思わ  
れる地域に関心を持ってきました。社  
会で蓄積された富は地域の質を高め、  
栄養の良い状況を作りださなければな  
らないでしょう」

「町の南にあるアイデアカカン小学  
校という、最も生徒の多い学校で、栄



### 次回はホスト役

### 皆さまに満足を

リム・チャイ・ホンさん

AFSペナン（マレーシア）

「フランチェスカと呼ばれていま  
す」。本職は看護師。ペナンのカトリ

養摂取月を始めました。スूप・キッ  
チンププロジェクトを実施して「Urban  
と呼ばれる鳥糞炊を配りました。ま  
た、250名以上の生徒を対象に、ポ  
スターやスローガンコンテストをし  
ました。子どもたちの笑顔に接するた  
めに、年中行事にしていきたいもの  
です。学校のPTAを通じて普段の活動  
に組み込まれていくことが望まれま  
す」

ック教会を拠点に幼児教育や地域支援  
など様々なボランティア活動を推進。

JAFS同様に貧困対策と環境改善に  
ついての会議も開き、地域社会の発展  
に寄与している。「ネットワークセミ  
ナーには第3回（1993年、イン  
ド）から参加し、JAFSとは強い絆  
で結ばれています。本職は引退してい  
ますが、社会貢献活動は継続していま  
す」。今回は仲間のグレンチャ・シリ  
パラさんも参加した。

セミナー最終日に次回セミナーの開  
催地を決めるのが恒例で、今回はAF  
Sペナンがホストとなり、マレーシア  
のペナンで開かれることが決まった。  
「マレーシア開催は、1996年のパ  
ンコール島に次いで2回目です。皆さ  
まに満足いただけるセミナーにしたい  
と思います」

（インタビュール JAFSスタッフ 永井博記、柿島裕）



## インドの学校教育プログラム

プラモッド・ソラット  
HDSI (インド) 代表

農村に住む、特権を持たない子どもたちに、より良い教育を提供することが、設立以来、我々HDSIの主な目的であり活動です。HDSIは平等な機会を農村の子どもたちに提供してきました。全ての子どもたちが正しく適切な教育を受ける機会に恵まれ、国に対して責任を持つ人間に成長することを目指しています。子どもたちが貧困により社会的に立ち遅れたり、また他の様々な理由により教育を受ける機会から遠ざかることで、発展の主流から置

き去りにされてはいけないというビジョンを支持してきました。こうしてHDSIは農村地域で、貧しく社会から無視された子どもたちに対し、教育プログラムを立案し提供してきました。マハラシュトラ州アマラツティ県チカルダーラ村にあるセントジョンズ修道院英語学校には幼稚園部門と5年生までの小学校部門があり、英語教育に重点を置いています。今期は幼稚園に80名、小学校に127名の生徒が在籍しています。有



課外活動で、豪華な衣装を着飾った子どもたち＝セントジョンズ修道院英語学校

## 平等な学びを農村の子らに

of the academic programs in this school. Special emphasis is giving for the moral and values education and character building of the children at their younger age. HDSI also arranging periodical Parents Teachers Meetings on quarterly basis to assess and report the merits of the students to their parents and matters related to regular management of the school activities. We have arranged annual day celebrations at the school and it was a platform for the students to perform their art and cultural activities before the fabulous audience. This helped the students and parents to improve self dignity. This year students from this school were attended in the ISO organized Maths Olympiad Examination and each one performed well.

We have given importance to familiarize the use of computer technology for the students and the computer classes for theory and practical were arranged for the students as part of the curriculum. Students were also obtained opportunities for participating in the science exhibition arranged by the Panchayath Samithi.

The commitment of the teachers and the enthusiasm of the children together with the cooperation and support of the parents and efficient management of HDSI made the learning environment conducive for better education.

能な教師陣が教えています。6月の間、学校運営管理部門は、新しい生徒の入学とデータ整理のために必要な準備を行いました。我々は生徒たちを「アドハー」というインドのマイナンバー制度のようなシステムにも登録し、必要なデータと情報をインド政府に提出しました。同校は、国家的英雄の聖誕祭や偉大な国家リーダーであるマハトマ・ガンジー氏、ビームラオ・ラームジー・アンベドカル氏の誕生記念日などの、非常に重要な国家の日を祝います。さらに独立記念日や共和国記念日についても式典を開催します。これら祝賀行事の一部として、エッセイコンテストを、生徒たちの一般常識や書く能力を養うために行っています。生徒たちは国際女性の日も祝うとともに、全ての女性に敬意を表すことや社会における女性の役割に関して理解を深めています。カリキュラムと年間プログラムは各年度が始まる前にもとても良く計画されており、この学校で学ぶ生徒たちの教育機会の重要性をしっかりと組み込んでいます。同校には課外活動(親睦会、芸術・スポーツ振興、定期健康診断、おしゃ

れファッションショー、スタディアー(など)が年間プログラムに組み込まれています。また、特に道徳意識や価値観についての教育や幼時からの人格形成に、同校では大変力を入れていきます。HDSIでは四半期に一度、定期的に親と教師が面談をして、生徒たちの成績を評価報告し、同校の運営や学校の活動に関しても併せて説明を行っています。学校では1年に一度の記念日を設け、生徒たちがそれぞれの芸術文化的活動を聴衆の前で発表する場としています。こうした機会により、生徒と親は自身の尊厳を高めます。今年の生徒たちは数学オリムピックにも参加し、良い成績でした。さらに生徒たちがコンピューター技術に慣れ親しむことを重視し、コンピューター理論と実習の授業をカリキュラムに組み込んでいます。また生徒たちは科学エキシビジョンへ参加する機会も得ました。教師陣の献身的な指導と生徒の熱意、親の協力とサポート、そしてHDSIの効果的な運営が、学ぶ環境を作り、より良い教育が生まれています。(翻訳・カンボジア王国名誉領事館館長 木下峻佑) ◆HDSIの井戸事業とグリーンスクアウト活動がJAFSの支援対象ですが、同地で水くみから解放された子どもたちの教育の様子を紹介します。

## School Education Program

Pramod Thorat HDSI (Human Development Society of India) Director

Providing better education to the less privileged children in the rural villages is one of the main objectives and intervention of HDSI since the inception of the organization. HDSI provided equal opportunities for the children belong to the rural areas comparing with their counterparts living in the cities. We believe every child shall be motivated to get proper education to become responsible citizens of the country. HDSI upheld the vision that no children left out from the mainstream development by being unable to pursue their education due to several reasons such as poverty, backwardness or so on, hence HDSI planned and has been implementing education program for the poor and marginalized children in rural areas.

School at Chikaldara have two sections one for preprimary classes and another for primary classes and both schools are named St. Johns English Convent School. Children from Kindergarten to 5th Standard is studying in this school and giving importance to English education. There are 80 students studying in the preprimary section and 127 students studying in the primary section during this period. The efficient teachers are recruited and teaching at the school. During the month of June the school administration made necessary arrangements for enrolling new students and filing the data with necessary authorities. We also enrolled the students with Aadhar and uploaded necessary data and mark sheets to the government specified portals.

The school also observed important days like National Hero Jayanthi and birth anniversary of great national leaders such as Mahatma Gandhi, Bhimrao Ramji Ambedkar etc. also arranged celebrations on independence day and republic day. As part of the celebrations we have arranged essay competitions for improving the general knowledge and skills of writing of the students. Students also observed International Day of Women and given respect to all women and made aware of the students the role of women in the society.

Curriculum and academic year programs were well designed before starting of each academic year and due importance were given to the academic and nonacademic activities of the children studying in this schools. Extracurricular activities such as social gathering, arts and sports promotion, regular medical camps, fancy dress competitions, study tours are part



# サルボダヤにAFSスリランカ部会

JAFS常任理事 西田 貞之

本会の長年の提携団体であるスリランカの名門NGO・サルボダヤ（1958年創立）にこのたび、アジア友の会スリランカ部会「AFSスリランカ」が発足しました。

2017年9月2日、サルボダヤの本部があるモラトワ（スリランカ最大の都市コロンボの南約20km）で発会式があり、JAFSから村上公彦事務局長、小原純子副会長、山下泰之監事、井戸を寄贈された木村文子さん、報告者西田が参加しました。AFS国際ネットワーク事務局からはジーナ・ヤツプさん、AFSベンガルール会長のM・R・カムレ（インド政府上席国家公務員）さんが参加しました。

約100人の出席者を前に、式典は伝統的なオイルランプの点灯式から始められました。主だった出席者が順次点灯した後、黙とう、カマル・ワルボダ教授の歓迎あいさつ、ビニヤ・アリヤラトネ博士の特別講演、サルボダヤとJAFSの友好関係についてのビデオプレゼンテーション、A・T・アリヤラトネ博士のあいさつ、村上事務局長のあいさつと続きました。法律専門家による規約の提案、出席者による承

認、役職者の任命があり、正式にAFSスリランカ部会が発足しました。

その後、ジーナさん、カムレさんから参加者のあいさつが続きました。私は「このサルボダヤのホールに戻って来ることができて幸せに思います。2001年、初めてアジア国際ネットワークセミナーに参加したときもこのホールでプレゼンテーションを行いました。その時の印象が良かったから私もこの活動に加わるようになりました。AFSには、今や先進国になった国や発展途上国など様々な国があり、お互いに学ぶことも多いと思います。」という発言を行いました。

ラビンドラ・カンダーゲAFSスリランカ副代表の閉会宣言で発会式は無時に終了しました。

昼食は、サルボダヤ本部の敷地内にあるA・T・アリヤラトネ博士の自宅で行われました。

サルボダヤの創始者、A・T・アリヤラトネ博士は、1931年11月5日にスリランカで生まれました。教員養成カレッジを卒業後、仏教系のエリート校ナーランダ高校の理科教師を14年間勤めました。そのころ、生徒とともに訪れた農村の貧しさに衝撃を受けたことをきっかけに、農村開発運動を始

めました。

サルボダヤとは、「すべての人の心の目覚め」を意味します。ひとりの目覚めが家族の目覚めを起し、家族の目覚めは村人の目覚めに、多くの村の目覚めは国の目覚めにつながるとし、最終的には世界から飢餓・病氣・無知・争いをなくすことを目指して社会活動を行っているスリランカ最大のNGOです。「真実と非暴力」をその基本理念として、貧富なき社会の構築を目的に60年近く活動し、現在ではスリランカの1万5000の村（総人口の約2割）で活動を展開中です。

スリランカでは、1983年以来続いていた内戦が2009年に終わり、少しずつ穏やかさを取り戻してきています。サルボダヤも、第二世代への移行とともに、アジア各国をはじめとする幅広い交流を求めて、少しずつ変化しつつあります。

A・T・アリヤラトネ博士と当会の村上事務局長とは旧知の仲であったため、1988年以降、サルボダヤは、JAFSの現地提携団体としての活動もしています。JAFSは、飲料水支援プログラムを中心に、総合的に支援しています。今回は、木村さんがクガタマ村に寄贈した井戸と、日東電工が寄贈した水道パイプラインを見学し、村人と交流しました。二つの施設とも生活用水、飲料水として現在も活用され、村人から感謝されていました。

# ルソン島に育てた竹林 地域守り人々を支える

フィリピンの中で一番大きな島、ルソン島の中央部内陸に位置するヌエバエシハ州は、パンパンガ川の中流域で平野が広がり、米作りがさかんな地域です。その一方で毎年、台風季節には川が氾濫し、水害の深刻な被害に悩まされてきました。家々や大切に育てた作物、家畜が流され、飲料水の汚染やライフラインの寸断が地域の発展を妨げています。

当会は現地提携団体のカリピ財団と連携し、1985年から井戸建設や植林、診療所建設などの国際ワークキャンプをしてきました。その中心的な役割を担い、継続して大きな支援をしてくださったのが、当時の松下電器関連労働組合の方々です。

その活動の一つとして、バンブープロジェクト（竹を贈る活動）があります。1993年から2004年の間に2万6570本の植林と3万本以上の育苗が行われました。

1991年にピナトウボ火山が噴火した後、この地域には多くの被災者が避難し、移入しました。焼畑や生活のために乱伐して木々がなくなり、荒れ果てた土地になってしまっていました。



① 植えて年を経た竹は大きく育って根を張り、川岸の土壌を支えている  
② フィリピン、ヌエバエシハ州  
③ ワークキャンプ参加者たちが竹の苗を植えた  
1993年

た。森は村人にとって生活基盤であり糧でもあります。緑多い土地をよみがえらせることが生活を復興させるために急務であると考えられ、プロジェクトがスタートしました。

竹が選ばれた理由は、成長が早く、砂地や粘土層にも根をよく伸ばして土

てた苗が植えられました。さらに、様々な果樹や、防虫効果のあるニームの木なども植えられ、緑豊かな土地へと変わってきました。最初の植林から20年以上の月日が流れ、大きく成長した竹は根を張り、川の土手を守り、台風や洪水の際の川岸の浸食を最小限に防いでくれています。

当時のワークキャンプに参加して経験を積んだフィリピンのメンバーが、今は地域のリーダーとなり、若い世代にグリーンスカウト活動（環境保全運動）や農業、職業訓練などセミナーを開き、指導しています。

メンバーの一人であるロデルさんは「多くの日本の方々が長年にわたり、ワークキャンプでパラヤン市やサンレオナルド町、サンアントニオ町、ガパン町などを訪れ、一生懸命に村人たちのために事業を進めてくれたことに、心より感謝を申し上げます。ワークキャンプをしたことで、村の人々も地域に対する思いが大きく変わった。一緒に汗を流し、またホームステイや文化交流をしたことは、忘れられない思い出だ。またぜひカリピを訪ねてほしい。Maraming salamat!（本当にありがとうございます）」と話していました。

カリピ財団創設者のジミー・クナナ氏は昨年4月に天国に召されましたが、その理念・思い・活動は確実に地域の人に引き継がれ守られています。（JAFSスタッフ 岡本佳子）



村上事務局長（立ってあいさつする人）らJAFSメンバーも参加した=9月2日、モワトラ



# ネパールにJAFSの拠点事務所

1986年にネパールアジア友の会（NAFS）が結成されて以来、長きにわたってネパールを支援し続けているJAFS。その拠点となる事務所がこのたびカトマンズ市内に設置され、写真Ⅱ、2017年11月2日に開所式が行われました。ネパールの法律によ



り、国際NGOとして活動するには現地に政府に登録することになったためです。宗教的儀式的後にテープカットを行い、オープンしました。

ネパールと日本の国旗をお菓子で飾らった特注のケーキが用意され、場を盛り上げました。現地スタッフや関係者も30名ほど集まり、とてもにぎやかで楽しい開所式でした。

その夜には、事務所の開所祝いと我々JAFSメンバーを歓迎するためのパーティーが、カトマンズ市内のホテルで盛大に催されました。結成当初の創立メンバー、今の中心メンバー、次世代のメンバー、また子どもたちまで、全部で50〜60名が集い、ともに祝い、喜び合いました。

ネパールの人たちは、とても陽気で楽しく親切な方ばかりでした。初めてネパールに行き、支援現場も訪れましたが、JAFSの活動がどれだけ現地の人々に貢献しているのかが、とてもよく分かりました。地震の復興支援、パイオガスプラント、学校建設、井戸やパイプライン、里親制度……。

「百聞は一見に如かず」。やはり現地に行ってみる大切さを、しみじみ感じました。

（JAFS海外プロジェクト

副委員長 米田明正）

# ネパールに根を張り復興支援

JAFSから贈った避難袋を受け取る少年Ⅱ2017年8月6日、シンドウパル  
チョーク郡ボテシバ村



してのパイオガスプラント設置の導入 ⑤復興と持続可能な地域づくりのための農業支援プロジェクトの調査を進めています。

避難袋は275世帯に配り、その折に、現在の状況などをモニタリングできました。住宅再建を始められてうれしいという話を聞く一方、逆の人たちもいます。「このような生活が続くなら長生きしても仕方ない」と寂しい話を口にする高齢者が何人もいて、復興の先が見えないでいることを感じずにはいられません。

大地震から2年半が過ぎたネパールでは、2017年5月に地方自治体選挙が19年ぶりに実施され、11月末には下院選が行われました。地方自治体選挙の前に行政区が新しくなり、地方政治がようやく動くようになりました。本会は、地震被災者の支援活動をひき続きしています。主に①避難袋の配布とその使い方の講習 ②復興住宅の再建 ③被災後水源地が下がったエリアへの飲料水供給 ④代替エネルギーと

された婦人会は、自分たちで運営をしていこうと役員を選ばし、リーダーを自分たちで決めるに至りました。パイオガスプラントの設置を、住宅再建と並行して進めています。7月に普及説明会をしたら、多くの村人が参加して興味深そうに聞いていました。⑤の調査を元にして今後、復興のみで終わらない未来に続く地域づくりに入っていく予定です。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

# 熊本地震から1年半

熊本地震から1年半が経ちました。2017年10月現在の益城町の仮設住宅では、自宅を自力再建し、退去する方も少しずつ出てきています。自治会長が1年の任期を終えて交代する仮設団地もあります。仮設団地では、自治会長の負担が以前から課題でした。

自治会長の役割は、町から住民への連絡事項の伝達、県内外から申し出のあったボランティア（草刈り、お茶会、音楽会、ものづくり、健康講座等）受け入れ、その他住民の御用聞きなど多岐にわたります。全てをこなしていたら、とても自宅の再建に手が回りません。

私たちの役割の一つに、その自治会長の負担軽減があります。県内外からのボランティアのスケジュール調整、集会所への案内、イベントの準備・片付け、住民への声掛けなどをしてきました。会長を始め、その他の役員の負担を少しでも減らせるよう、日々活動をしています。私たちの協力で個人的な用事もできたと言ってもらい、うれしくなりました。

しかし、安心はしていません。今まで中心となっていた住民が抜けると、自然と集まる機会が減ってしまうと、ある仮設団地では、住民が主催して週に2回体操をしていましたが、

先日、退去準備に入るためと、終了してしまいました。それでも、まだ残っている住民はたくさんいます。また、外部からのボランティアも減ってきています。たくさんイベントがありすぎても負担になります。全くないと集まる機会が減り、孤立する人が出てきます。住民が自主的に周りに声掛けをして集まれば一番いいのですが、なかなかそうもいきません。

そこで私たちは、長く定期的に支援をしてもらえるような県内の大学生と仮設団地をつなぐお手伝いをしていきます。仮設団地の自治会と大学生とで、どんなことをしたいか考えるところからイベントを企画しています。先日は、餃子を作って食べる会をしました

Ⅱ写真。仮設団地の住民だけでなく、もともとの地域住民にも声をかけ、農家からニラをいただき、お母さんたちが野菜を刻み、みんなで包んで焼いて食べて大変盛り上がりました。

私たちも県外から支援に来ている身として、今後、仮設住宅の自治会とどう関わるか、被災者をどうケアし続けるか、日々探り探りです。自宅を再建して元の地域に戻った方も、仮設住宅に残る方も、元の地域にそのまま残っている方も、地域に暮らすみなさんが明るく、安らかな生活ができるよう心から願い、支援を続けていきます。

（熊本地震被災者支援実施スタッフ 市川睦美）

# 地域の安らかな生活を心から願う





## 病気の不安なくなり生活が改善

1 kmも離れたため池の水を生活用水として使っていました。動物の糞尿に汚染されており、高齢者の90%は煮沸して飲んでいますが、子どもたちはそのような習慣がないため病気にかかりました。自給農業で現金収入の乏しい両親にとって、病気は経済的、精神的に大きな負担になります。井戸を掘れば解決するのですが、貧しい村人には資金がありません。寄贈井戸によって長年の問題が解決しました。生活環境の改善によって新しい第一歩が踏み出せます。



タケオ州ドーンケオ郡トラパインサラ村  
受益者：42名（11世帯）  
井戸形式：露天式（深さ31m）

【寄贈者】天理教明城大教会様

## 【寄贈者】近畿ろうきんすまいるプロジェクト様 自助グループが窮状訴え

マハラシュトラ州アムラワティ県アンバダ村  
受益者：204名（約55世帯）  
井戸形式：ポンプ式（深さ約140m）



村人は農業や養鶏で暮らしていますが、現金収入が少なく、季節労働者として男性は出稼ぎに出、村の経済は女性が守っています。現地提携団体HDSIは村に女性自助グループを結成して資金を援助しています。その自助グループが飲料水の窮状を訴え、井戸寄贈につながりました。井戸ができるまで3 kmも離れた井戸まで水くみに行っていました。井戸は遠くて混雑するため時間がかかり、収入につながる労働ができませんでした。井戸のおかげで生活が一変します。

## これで子どもたちが安心して学べます

村は幹線道路とつながっていないため、開発が遅れています。2015年4月の大地震のため、村人は自分で作った粗末な仮設で暮らしています。チャンドソリ小中高等学校は村で唯一の公立高等学校で、近隣の小中学校を終えて進学を希望する子どもたちは、みんなここに進学します。以前は良い水源がありましたが、地震で水が出なくなりました。再建されたトイレも、水がなく使用不能。子どもの学習にも影響が出ていました。貯水タンクとパイプラインで水を引くことができました。



バグワティ県シンドウバルチョーク郡ポテンパ村チャンドソリ小中高等学校  
受益者：約500名  
井戸形式：水道パイプライン

【寄贈者】直の会様

ご寄付には  
税の優遇措置が  
受けられます

## なくそう貧困。命の水を！

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（地域によって異なります）  
インド=55万円 フィリピン=30万円 カンボジア=25万円  
ミャンマー=20万円 スリランカ=20万円  
ネパール=15万円（パイプライン=25～150万円）  
バングラデシュ=浅井戸20万円、深井戸50万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です

・三菱東京UFJ銀行 大阪中央支店 普通 1968711

■お振込み先■ 公益社団法人アジア協会アジア友の会  
・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会  
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

# みなさんのおかげで 井戸ができた村

## 役割分担し長く使えるよう管理

【寄贈者】JAFSサルボダヤ友の会様

村人の9割が農民ですが、現金収入が少なく、出稼ぎに行っています。井戸を寄贈くださる前は、1.5km離れた井戸まで水くみに行っていました。遠方のため、重労働でした。水くみに時間がかかるため、他の収入を得る仕事ができず。いっそう貧しくなるばかりでした。井戸をつくるために村人と行政職員が労働を分かち合い、交流が生まれたことは良いことでした。井戸を管理するために管理委員会ができました。役割分担を決め、長く使えるよう定期的に管理していきます。



ウバ州バドゥラ県ヤハレゴダ・エツラ村  
受益者：約210名（約50世帯）  
井戸形式：露天式（深さ6m）

【寄贈者】JAFSサルボダヤ友の会様

## 建設・維持に村人が交流・協力

東部州アンパーラ県ミランバ・コンガス・トゥヤヤ  
受益者：約100名（約25世帯）  
井戸形式：露天式（深さ6m）



村人の9割が農民ですが、地区は干ばつ傾向で収入は少なく、出稼ぎで家計を補っています。今までいくつかの井戸がつけられましたが、飲料に適さず、乾季には干上がってしまいました。そのため遠くまで水くみに行かねばならず、収入を得る仕事につけませんでした。寄贈井戸建設では村人が建設に携わり、交流を深めることができました。井戸利用者から自発的に管理委員会ができました。衛生的で枯れることのない井戸を維持していくため、村人が協力していきます。



【寄贈者】株式会社クレコス にここに倶楽部 様

バグワティ県シンドウパルチヨーク郡ボテシパ村 受益者：45名（10世帯）  
井戸の形式：水道パイプライン



母親たちの心労が軽減

18ページ最下と同じパイプラインにある別の水場の集落です。小さな子どもを抱えた世帯が多く、母親たちの多くは、子育てをしながら農業を営み、日々の食糧を確保しています。これまでは、子どもを背負いながら、隣の地区まで水をくみに行っていました。このたびのパイプライン水場の完成により、母親たちは家の近隣で水をくむことができるようになりました。重労働ばかりでなく、心労も軽減されました。

農業を再開できて村人に笑顔

カトマンズから61kmの山の中腹にある村。幹線道路から遠くて開発が遅れ、貧しい農民たちが暮らしています。2015年の大地震で家はほとんど倒壊し、粗末な仮設住居での生活です。地震後に水源が変わり、生活水や農業用水の確保もままなりません。野菜を育てられなくなるなど、村人の暮らしは一変しました。パイプラインの完成で地震前に近い生活に戻れましたが、水量が減っており、使う時間を制限しています。農作物を栽培できるようになり、村人に笑顔が戻りました。



【寄贈者】株式会社山正 様

バグワティ県シンドウパルチヨーク郡シパボカ村 受益者：230名（40世帯）  
井戸の形式：水道パイプライン

お年寄りが楽に水をくめる

ここも、18ページ最下と同じパイプラインにある別の水場の集落です。高齢者が多く、50代までの男性は、ほとんど出稼ぎに出ていて不在です。夫婦で出稼ぎに出ている世帯もあります。残された老夫婦が、孫たちの世話をしながら暮らしています。長年の水くみも体にこたえるようになってきています。地震復興支援で本地域に入った頃から、その苦労を耳にしていました。このたびようやく集落に水場を設置することができ、水をくむ顔が笑顔に変わりました。



【寄贈者】山口市朗 様

バグワティ県シンドウパルチヨーク郡ボテシパ村 受益者：39名（8世帯）  
井戸の形式：水道パイプライン

【寄贈者】高石 佐藤手芸教室・堺ギャラリーいろはに 様

不安から希望へ



大地震でこの集落の家屋が全壊しただけでなく、その後の大雨で地崩れが起き、生活エリアを変える必要を感じるほどの状況でした。しかし、低収入であるため、移り住む費用もありません。JAFSの地震復興支援によって地ならしを行った後に、家屋を再建しました。そして、この支援により、ようやく飲料水が供給できました。不安の中にあつた生活が、未来に向かう計画的な生活に変わりました。ここで未長く生活できる地域づくりを目指したいです。

バグワティ県シンドウパルチヨーク郡ボテシパ村 受益者：80名（15世帯） 井戸の形式：水道パイプライン

【寄贈者】田村 修一 様

子どもの手がきれいに洗える



バグワティ県シンドウパルチヨーク郡ボテシパ村 受益者：73名（14世帯） 井戸の形式：水道パイプライン

ここも、18ページ最下と同じパイプラインにある別の水場の集落。山の下部にあり、隣の地域に行くにも、登り降りに一番距離と時間がかかっていました。しかし、平らな斜面があるため世帯数は多く、水環境の改善を求めています。山の地域に水を供給するためには、まず、水量のある水源を確保し、集水タンクを設置しなければなりません。このたびの支援で、ようやく実現できました。これからは子どもたちの顔や手をきれいに洗えると、母親たちは大喜びです。

自分たちの集落で水をくめる

ボテシパ村の中でも、傾斜がとても険しい地形に集落が形成されており、雨季には家屋周辺の崩壊が頻繁に起きる地域です。カミと言われる鍛冶屋カースト（低カースト）の人々が生活しています。低収入の人が多く、自力で飲料水設備を設置できません。山道を登り降りして、隣の地区で水をくんでいました。このたびの支援により、自分たちの集落で給水できるようになりました。水くみをする女性たちをはじめ村人は、念願の夢がかなったと喜んでいます。



【寄贈者】仁愛会 様

バグワティ県シンドウパルチヨーク郡ボテシパ村 受益者：52名（11世帯）  
井戸形式：水道パイプライン



トラペアン・トム村  
受益者：50名（13世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ21m）



トラペアン・トム村  
受益者：46名（10世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ19m）



## 未来へ向け生活改善／水くみから解放 若者がいる村に／意識革命への第一歩

【寄贈者】イオングループ労働組合連合会様

イオングループ労働組合連合会さまが井戸を寄贈されたカンボジア、タケオ州トリアン郡の6村計12カ所から、感謝の手紙と写真が届きました。

水による病気は、自給農業で現金収入のない住民にとって経済的、精神的に大きな負担。出稼ぎやその日暮らし

の貧困から抜け出せることは容易ではありません。未来へ向けて生活改善が図れます。（トラペアン・トム村）

生活用水は、2キロ離れたため池です。動物や家畜が入り汚染されています。日に2〜3回行く水くみは大変な重労働です。トイレ普及率は10%。寄

贈井戸によって衛生的で健康な生活が送れます。（トラパン・ベン村）

農村部の人々が建設現場や工場に出稼ぎに出て、村には高齢者や子どもが残り。生活用水は依然としてため池の水に頼り、水くみは重労働です。寄贈井戸で病気になることなく健康な生活が送れます。（ダウン・プー村）

村人の多くは自給農業なので現金収入は望めません。水くみは重労働なので、業者から水を90リターの約375円で買っていますが、大きな負担です。寄贈井戸で安心して健康な生活を送れるようになりました。（タスレン村）

多くの若者は高校を中退し、家族のために都会へ働きに出ます。荒廃した村に若者を引き留め、発展させるためには、生活環境の改善が第一です。寄贈井戸によって、その一歩が踏み出せます。（ソピー村）

世界文明発祥の地はすべて大河流域にあります。生命の根源とも言える水が遠くにあつたり糞尿に汚染されたりでは、健康的生活を営めません。井戸を掘る資金や余裕もない人たちに、衛生的な水の確保は生活改善の第一歩となり意識革命につながります。（トラペアン・ロンベアック村）



タスレン村 受益者：76名（13世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ16m）



タスレン村  
受益者：63名（14世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ18m）



ソピー村  
受益者：53名（12世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ16m）



ソピー村  
受益者：53名（12世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ16m）



トラパン・ベン村  
受益者：55名（13世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ44m）



トラパン・ベン村  
受益者：46名（11世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ42m）



トラペアン・ロンベアック村 受益者：58名（13世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ16m）



トラペアン・ロンベアック村  
受益者：58名（11世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ18m）



ダウン・プー村  
受益者：56名（11世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ26m）



ダウン・プー村 受益者：56名（11世帯）  
井戸の形式：露天式（深さ24m）





長らく休止していた「アジア協会アジア友の会・社員クラブ」が2017年10月10日、大阪市北区、中之島フェ

## 「死ぬまで勉強」社員クラブ復活

し参加できる、楽しくて実りあるアジアン・チャリティー・フェスティバルを目指し、多くの皆さんとの交流の輪を広げていき、このボランティア活動

がアジアの人たちと共に「アジアの恵まれない子どもたち」のために貢献していくことが重要だと思えます。  
(JAFS理事 坂口久代)

ステイバルタワー12階のレストラン「ラルゴ」で、社員の2割以上にあたる50名が参加して開かれ、復活しました。

社員同士の交流と親睦に加え、今回は「死ぬまで勉強」を新たに目標に掲げました。大阪府民文化部の播本裕典・国際交流長 写真前列右から2人目IIを招き、「観光だけじゃない国際都市 大阪」をテーマに話していただきました。

播本さんは、ロータリー財団による英国派遣（ホームステイ）を経て、2001年3月から約3年間、大阪府オーストラリア事務所長としてシドニーに駐在。在阪企業の輸出支援や豪州企業への大阪の売り込みなどを積極的に推進されました。現在は、外国要人ら賓客の接遇、在大阪総領事館との窓口役などをされています。

最近急増している海外からの観光客（1位中国、2位韓国、3位台湾）や外国人留学生（1位中国、2位ベトナム、3位韓国）などについて具体的な図表で解説し、参加者は、多文化共生



「食卓から国際協力へ」の言葉を励みに兵庫県尼崎市の我が家を開放して「天野サロン」を始め、5年が経ちました。地域の人々が自然体で参加できる会を毎月開き、上は95歳から下は0歳乳児までが、食事とおしゃべりを楽し

## 0〜95歳、食事を楽しみながら国際協力

の実態を知ることができました。講話の後は、久々に再会した社員同士に、入会間もない社員も加わり、和やかな懇親のときを過ごしました。  
次回は、1月29日（月）18時から、大阪・上本町近くのレストラン・カス

テロで開き、ラジオパーソナリティー&コメンテーターの末広真樹子さんに「誰かの役に立てる幸せ」をテーマに話していただきます。参加費4000円（食事・飲み放題付）。  
(JAFSスタッフ 柿島裕)

みますII写真、赤い服が私。ここで最近話題になったのが、ネパールの生理用布ナプキン。日本では考えられませんが、ネパールでは買うことができないのです。「自宅で眠っている生地があれば協力してほしい」と提案したところ、たくさん集まり、事務局に寄付することができました。

月1回ですが、みんな楽しみにしてくれていて、参加費の一部をネパールの井戸基金として貯めています。うれしいことに、2018年中には、もう一つ私が出した「尼崎ダンスの会（井戸の会）」と共同で、ネパールに井戸を1基寄贈できそうです。参加者のご理解とご協力のおかげです。

2、3人でも良い！このように気軽に食事を楽しみ、おしゃべりができる場所があちこちにできれば、昔のように隣人が助け合い、高齢者や子どもの見守りができるようになると思っています。  
(JAFS尼崎地区世話人 天野澄子)



国内外の様々なイベントをHPに載せています。記事についてお問い合わせはJAFSへ。  
II裏表紙にアドレス、連絡先

## みんな違って一つのアジア、つながる仲間

④多文化パフォーマンスがステージで繰り広げられる中、飲食を共にし交流の輪が広がる  
⑤マレーシア留学生がお国柄を感じさせるダンスを披露IIいずれも12月9日、大阪沖繩会館



大阪でアジアンチャリティーフェスティバル  
次世代の若者たちが「多文化共生」と「草の根国際交流」のネットワークを根付かせる原動力となるように、恒例のアジアン・チャリティー・フェスティバルを12月9日、大阪市大正区の大阪沖繩会館で開催しました。皆さん

の温かい協力により、10カ国450人におよぶアジアの人々が参加して交流し、盛況のうちに終わることができました。  
当日は、舞台では26ステージプログラムの演技が、午前11時の第一部開始から第3部終了の午後8時まで、途切れることなく披露されました。インド舞踊に始まり、トリの沖繩舞踊まで、ネパール、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、内モンゴルと、各国の民族色豊かで楽しいステージに、ぎっしり詰まった観客席からは大きな拍手がおくられ、会場が盛り上がりました。  
さらに日本の出演者の圧倒的に幅広いジャンルには、このフェスティバルでしか見られない面白さが一杯で、熱気にあふれた舞台でした。  
また留学生スピーチでは、マレーシア、バングラデシュ、タイの若者たちが、緊張しながらも流ちょうな日本語で真剣に、目をキラキラさせながらスピーチしました。舞台上でお楽しみコーナーとして、3回の抽選会もありました。  
フード・グッズの13出店ブースでは、自慢の食品や物産が彩りをそえて、会話が弾んでいました。  
次回も、若い世代の人たちがどしど



## 比ストリートチルドレンの実情を勉強

JAFS 京都地区では、フィリピンでストリートチルドレンを支援するプロジェクトをしているアジア社会科学の副学長、デニス・Y・バトイさんを講師に招き、第4回アジアの子ども支援勉強会を2017年10月23日、京都市南区の日本キリスト教団洛南教会

で開きました。写真、前列中央がデニスさん。アジアの貧困をなくすには子どもたちの教育が大切と考えて従来からしている支援活動の一環です。デニスさんは今回、アジアネットワークセミナー参加のため来日しました。当日は、ストリートチルドレンの現状と、日本からの支援を受けてどのような活動をしているかを、次のように話してくれました。



「マニラでは250万人いる15歳以下の子どものうち200万人が貧困で、7万5千人が路上で生活し、2万人が売春に関わっているといわれる。こうした子どもたちの就学を支えるため、制服、文具などを年齢に合わせて供給している」

京都からの支援で90人の子どもを支えているとの話でした。会の後、デニスさんと共に食事をしながら和気あいあいと懇談し、現地の状況をより深く理解できました。

(JAFS 京都地区世話人代表 辻賢二)



## インドの子どもを教育支援

大阪府の池田地区は、インドの子どもの教育支援をしています。隔月でJAFSの支援プログラムの話を聞く会を設けました。2017年11月23日は「教育の平等を願って」をテーマに、インドの少数民族の女性にとって健康や教育が大事であることを、現地の映像を通して聞きました。写真、テータイムには参加者から、インドを旅した経験と背景について楽しい話が出て、ついには日本の過去現在にまでわたる話題で盛り上がりました。初めての人でも会を企画できるように運営の流れを作成し、いろいろな地区で開けるようにと願っています。(JAFS 池田地区世話人 石原基義)

## 大阪のJAFS松原が府の社会福祉表彰



大阪府社会福祉ボランティア表彰式が2017年11月17日、大阪市天王寺区の大阪国際交流センターであり、JAFS松原(橋本末子・地区世話人

代表)が表彰を受けました。写真、1997年以来20年近く、地域に根ざして活動をしています。ぞうすい(雑炊・増水・贈水)の会やチャリティコンサートを開いて募金をし、井戸4基(ラオス、カンボジア、ミャンマー・バングラデシュ)、水道パイプライン2基(ネパール、フィリピン)を寄贈。地元中学校のフェスタに出店するなどして、異文化交流を推進しました。そうした功績が評価されました。アジアへの貢献や震災復興支援などの活動は他の模範となっており、私たちの大きな励みとなりました。(JAFS スタッフ 柿島裕)

## 社会問題に目広げる 絵本カフェを準備中

おしゃれな絵本カフェを、私が住む大阪府豊中市で開く準備を進めています。社会問題に取り組むボランティアの輪を、そんなことを意識しない人々に広げる楽しい場にしたのです。

私がJAFSを知ったのは、ワンワールドフェスティバルでした。それでもボランティア団体を探していたものの、関西で活動しているところがなかなかなく、豊中で活動しているJAFSを見つけたときは驚きました。

土と水と緑の学校などの活動も知り、娘と一緒にボランティアすることが夢だった私は、迷うことなく小学3



年生だった娘を参加させました。彼女は文句を言いながらも思春期を乗り越え、

20歳になる今まで土水と関わってくれました。最近ではフェアトレードや様々な社会問題について調べ、将来は若い人たちがその問題に気づき、考えるきっかけをつくりたいと話しています。

カフェに置いたチラシや絵本を、社会問題に目を向けるきっかけにしても良かったり、JAFSの活動報告会やイベントなどを開いて参加してもらいうちに、ボランティアがカッコいいと思ってもらえるようになればいいなと考えています。実現にはまだ時間がかかります。

かりますが、一步一步、歩んでいこうと思っています。(JAFS 豊中地区世話人 大谷利恵子)

## 楽しんで、支援する アイビー歌声サロン

私たち奈良県生駒市の「アイビー歌声サロン」は2016年にでき、25名ほどの会員で楽しく活動しています。決められた曲を練習するのではなく、各自が歌いたい曲をリクエストして、先生のキーボード生演奏に合わせて全員が歌います。リクエストが次々に出て、先生がときどき戸惑うほど活気があります。

自然にハーモニイができたり、口笛やハーモニイなどの楽器とセッションしたりして、楽しい時間があつという間に過ぎていきます。

毎年開かれる生駒市の自主学習グループフェスタにも参加しています。みんなが充実した楽しい時間が過ごせるのも、先生のご指導によるものと感謝しています。

そして、この活動参加費の一部でアジアの教育支援のために少しでも貢献できるのは、私たちにとても幸せなことです。この仲間とともにできることを願っています。(JAFS 会員 有山加代子)

## ドイツで難民見て 世界・アジアを意識

インタビュー 中村千風優



民・難民問題に興味を持ちました。ドイツで難民の行列を目の前で見、世界に

起こっている問題も他人事ではないという意識が生まれたのです。

卒論の関係で日本に在住する外国人を調べていくうちに、日本には多くのアジアの方がいることを知りました。彼らについて知っておくべきだと考え、アジア協会のインタビューに応募しました。

9月から活動を始め、10月に開かれたネットワークショップにも参加しました。事前準備から当日の活動まで様々な業務をさせていただきました。同じ目標を持った多くのアジアの方たちと話をすることができたことは、大変貴重な経験となりました。日頃色々な業務をさせていただいており、学ぶことばかりです。3月までという短い期間ですが、少しでも力になれるよう精一杯頑張りたいと思います。



## 養鶏支援くるくるプラザ

吹田地区では「もったいないな」の心で、二つあれば一つを隣人に分け合うという気持ちを集めたチャリティフリーマーケットを、大阪府吹田市のくるくるプラザで始めました。写真、人物は私。地区会で話を聞いた、インドの養鶏プロジェクト支援に役立ちます。

養鶏は親子で楽しくかわかることができます。卵を食べれば健康維持にも役立ちます。(JAFS 吹田地区世話人 江守猛)



7月からJAFS事務局でボランティアをしてくださっている杉本牧子さんは、看護師の経験を生かし、大阪市を本拠とする一般社団法人南太平洋協会（ASPA）でも海外ボランティアをしています。ASPAの活動地、パプアニューギニアへ2017年9月に行ったときの訪問記を寄せてくれました。

# 大自然に抱かれ 人間回帰を思う

## パプアニューギニア訪問記

今回はASPAのアシスタントナース育成プログラムに参加しました。村の子どもたちは栄養バランスが悪いため、外傷を受けると化膿しやすく、また皮膚を清潔に保つ環境に乏しい状態です。悪化しないような手当の方法（傷の洗浄・消毒・被覆）を一緒にしながら教えるプログラムです。

伊丹から成田へ。そこから週2便のニューギニア航空機に乗り、6時間半で首都ポートモレスビーに到着。車で少し市内観光もしました。

乾燥したサバンナ気候です。中央の山脈が北からの湿った風を遮り、フェーン現象のような熱波をもたらします。植物も覇気がなさそうでした。11月〜3月は雨季になるそうです。それから国内線に乗り、ウエワクまで飛びました。第二次大戦のニューギ



到着時の歓迎ぶり=9月22日、パプアニューギニア

ただし、夜はヘッドランプで足元に注意！他人のウンコを踏むおそれあり。  
入浴するにも、シャワーも浴槽も水道、電気もありません。村から歩いて20分、大きな川のがけを降り、川原にたどり着きます。ここで洗濯とお風呂、食器洗いも。頭を濡らし、シャンプーを泡立て、そのまま川の中に寝転ぶと、水の流れが人間洗濯機に早変わり。大空を見上げながら、水音を聞き、冷たい流れに身をまかせます。  
夜空は、それはそれは見事なものでした。星はプラネタリウムもビックリな全天覆う天の川。ハッキリ見え、流星も数知れず。星明りで歩けます。月明かりはもつとクッキリ、椰子の葉陰を照らしだし、海や波との境を見はるかす。ただし、椰子の下を歩く時はご注意ください。突然ポタッと大きな音。爆弾か？ いや、実の落ちた音。  
食事はサゴ椰子のでん粉をお湯で練ったものやタロ芋、菜っ葉のココナッツ煮、魚など一日二食です。

ニアでの最後の激戦地で、日・豪・米軍が戦いを繰り広げた所です。総員2万1600人の戦死者が出ました。  
今回、日本からの大きな慰霊団の皆さんと飛行機、ホテルが一緒でした。各村々には、戦没者の慰霊碑があります。村人がきれいに掃除・献花してくれていて、感慨深いものでした。  
空港からは、トラックの荷台を改良したバスのような乗り物で、一路ソワ

ム村へ。途中、半分は未舗装の凸凹道です。往復するとお尻の皮がむけました。熱帯雨林のジャングルが続き、大小の橋のない川を渡りました。  
村では、トイレは海の砂浜に行きます。何も遮るものがないため、初めは恥しく、スカートに履き替えていましたが、慣れてくると普通にズボンを下ろし、太平洋に向かいザボンという音を聞きながら、そう快な経験です。

LPガスの輸出などで都市との格差が拡大し、治安が悪くなってきています。それをいかに乗り越えていくか、新しい開発計画が求められています。  
2週間の短期間で、子どもたちに外傷が起きた後の対応のみで、生活を改善して予防する方法を伝えるまでに至りませんでした。これからもぜひ関わってゆきたいと考えます。

## 株式会社センターコーポレーション

センターコーポレーションには、長年培った経験とノウハウがあります。特に人材面では、お客様の要望に添った人選からマナー・サービス教育を徹底することで、高いクオリティでお客様の要望にお応え致します。「より良い人材の提供」より良いサービス

の向上」 センターコーポレーションからのご提案は2種。①有料職業紹介による人材サービス ②業務委託により安定したレストラン全体業務。いずれも長年の実績と経験で良質なサービスの提供をさせていただきます。

人材のサービスだけではなく、京都のホテル内の和食と中国料理の店舗、大阪のホテル内にバイキングレストラン、万博公園内に洋食レストランと和食の店舗、奈良のホテル内にバイキングレストランと和食店舗と、合計7店舗を直営で営業させて頂いております。

## レストランへ、より良い人材・サービスお届け



京都市下京区新町通四条下  
ル四条町349  
京都友禅ビル2F  
☎ 075-352-7070  
代表取締役社長 五味 明

## 株式会社てんてん

私たち「株式会社てんてん」は、飲食店を11店舗営みながら「人創りナンバーワン企業」を目指しています。  
今の時代、何をやるにも「人」が重要です。意識の高い心優しい「人」を育てること、社会に必要とされ、出会う人々から「応援される」人材を育成し、「てんてん」から地域を、日本を元気にします。

## 家族のような絆の飲食店、100店舗目指す



堺市北区船堂町1丁14-2  
エレガンス北花田1F  
☎ 072-258-1027  
代表取締役：中島一薫

私たちは2030年までに「かなえたい夢があります。」「てんてん大家族主義経営プロジェクト100」家族のような絆を持ったお店を100店舗出店します。その目的は、笑顔と元気の発信基地である店舗を創り、その店舗で働く仲間やお客様を幸せな気持ちにさせたいです。みんなが輝くステージとしたいのです。みんなの夢をみんなの力で叶えていきながら、関わる全ての人たちに「やればできる」を伝えていきます。

## 新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。



# 里子の笑顔

勉強したくても経済的な理由で学校に行けない、進学を断たれる。アジア協会ではそんなアジアの子どもたちを里親制度で支援しています。今回はネパールの里子の生活をお伝えします。

## 「アジア里親の会」 里親募集

- 対象国はインド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンです
- 会費は里子1人年額20,000円。複数も可です
- 里親には、里子の写真や成長記録をお届けします

## 表現する楽しさ、見つけられたかな

2017年8月、ネパール・チュニケル村のナウリンセカンダリースクールで、里子を中心に美術に興味のある子どもたちを対象にして、特別授業をしました。講師は、日本人ですがアメリカの大学准教授。子どもたちがプロフェッショナルな美術の授業を受けるのは、初めてのことです。



試験期間中だったにもかかわらず、集まった子どもたちの目はみんな、期待と緊張で生き生きとしていました。友だちの顔を観察して描く、ペットボトルと異素材を組み合わせてオブジェを作る「写真1」という、これまで学んだことのない2つの表現を2日間わたって学びました。

自分たちの頭に浮かんだこと、思っていることを表現することに慣れていない子どもたちにとって、誰かのまねをする方が楽で安心だったようですが、これまでとは違う表現の楽しさを理解した数名の子どもたちは、見せたことのない集中力を発揮しました。子どもの持つ力に驚かされました。美術が教育の場で教科として確立され、これまで表に出せていない子どもたちの潜在的な才能を外に出せるツールとなる日を願います。

(JAFSスタッフ 熱田典子)

## 環境コラム

化学物質の環境リスクを過去に若干研究した私ですが、長い間専門分野から離れているとはいえ、先日新聞で読むまで全く気づかず環境を汚染し、生き物に負荷をかけていた可能性がありました！実は2014年に国連環境計画が「世界で新たに生じている環境問題」と報告し一部では知られた事実だったようですが、

洗顔料に含まれるマイクロビーズ。多くはプラスチックの極小粒子で、毛穴汚れをかき出すこのビーズ入り洗顔料を愛用していました。が、ビーズが下水から川や海と環境に流れ出ています。鳥の体内に溜まっているというのです！マイクロプラスチック汚染です。

マイクロプラスチックは直径5mm以下のプラスチック。環境に流出したプラスチック製品由来のごみが劣化した、プラスチックの破片である2次マイクロプラスチックが汚染源の9割を占め多いようですが、こちらは砕ける前から、目に見えるプラスチックごみとして問題でした。

目に見えないマイクロプラスチック汚染が新しい観点となり、近年使用されるマイクロビーズなど元々小さな1次マイクロプラスチックも着目されました。

マイクロビーズは歯磨き剤などにも使われており、先進国の下水処理なら99%

## マイクロプラスチック

天然セルロース・コロンスターチから開発し、マイクロプラスチックに該当しないと、使用していた他の製品でも16年末までに代替素材に変更とのこと。確かに洗顔料を見るとセルロース・コロンスターチと記載があります。このメーカーはひとまず安心？

日本近海の海水1.0m当たり3個、東京湾のイワシから平均3個のマイクロプラスチックが見つかるそうです。この量とリスクをどう考えるかについて未だデータが十分ではない現状ですが、ともかく問題視される物はある程度出さないと、今後はマイクロプラスチックも気にしておこうと、遅ればせながら私が出した。 (JAFSスタッフ 川本裕子)

除去できると言いますが、チューブ1本に数万個入っているほどの使用量です。除去できない1%は数百個に相当し、途上国など除去できない国も多く、いったん環境に出てしまうと回収は困難です。EU4か国は14年に化粧品へのマイクロプラスチック使用禁止の共同声明を発表。米カリフォルニア州では、マイクロビーズを含む製品を20年以降販売禁止。日本も16年3月、日本化粧品工業連合会が会員企業1100社に対し、使用中にに向けた対応を行うよう通知しました。

私が使う洗顔料メーカーもHPに対応を掲載。実はこのマイクロビーズは元より

# アジアの友から



インド農村開発センター (EDCI) 元スタッフ  
故ブラザー・シン氏

本会は貧困脱却を各地で進めるアジアの団体と提携しているが、活動の成果は携わる人により左右されるとつくづく思い知らされている。開発協力の現場では、多くの知識を持つエリートより、心ある知恵を持つ善人が力を発揮する。そのことを思うとき、私は、一人の人物を忘れることができない。

セオヒル・シン。通常、我々はブラザー・シンと呼んでいた。本会の提携団体、インド農村開発センター (EDCI) ナグプール市のスタッフとして、1982年から33年間、井戸掘り事業をはじめ、貧しい農村の生活改善に取り組んだ人である。1951年にインドのオリッサで生まれ、2015年に64才でその生涯を閉じるまで、ひたすら人に奉仕す

## 貧困からの脱却—わが盟友を思う

以来、彼が自分の子として育てた貧民の子どもは、百人を下らない。貧弱な小屋に住み、粗末な食事に甘んじ、障害を持つ子や極貧の家族の支援に終始した。本会が彼に支援するわずかな報酬は、瞬間に誰かの医療費や学費、生活費になった。

独居老人の生活実態を知りたいと言つて一度、和歌山県の限界集落で1か月ほど暮らしたことがあった。たちまち村の人気者となった。言葉が通じないのに不思議な話である。ブラザーが天に召されて早2年。彼の働きは今も彼の地域に生きている。開発とはまず心の開発が一番であるとは彼の哲学であった。33年間一緒に仕事をしたのを光榮に思う。(JAFS事務局長 村上公彦)

## 冬季募金受付中です

旧年中は様々にご支援いただき、ありがとうございました。年が改まりましたが、11月にご案内させていただいた「冬季募金」はまだ受付けております。アジア各国の友も喜びに満ちた新年を過ごせますよう、重ねてで恐縮ですが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 入会のご案内

皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。

- |                   |      |                            |
|-------------------|------|----------------------------|
| A. 維持会費           | 年額1口 | 12,000円<br>(月額1,000円)      |
| B. 賛助会費           | 年額1口 | 6,000円<br>(月額600円=振込手数料含む) |
| C. ジュニア会費 (高校生まで) | 年額1口 | 1,000円                     |
| D. 団体会費           | 年額1口 | 20,000円                    |
| E. 法人賛助会費         | 年額1口 | 50,000円                    |

会費・寄付の振り込み先  
郵便振込  
00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

## 編集後記

**春** は桜、夏は鮎、秋は秋桜、冬は雪景色。アジアの人達が地域おこしの手法を絶賛した京都美山の「かやぶきの里」を、皆さんも一度訪問されては。(敏)

**中** 国のシルクロードを旅しました。一帯一路経済圏構想と重なって高速鉄道や道路網が拡張され、西安や敦煌では観光施設の整備も急ピッチでした。(督)

**年** の初めの誓いを墨で書く。今年には川柳で日記を書く。毎日のウォーキング等、いつも三日坊主の定番を誓うという、元旦の誓いだけは続いている。(眞)

**懐**かしい人々との再会や、新しい人との交流の始まりがありました。急にSNSがにぎやかになり、寄せられる活動の勇姿を眺める日々が続きます。(博)

**12** 月長谷寺に行きました。紅葉が素晴らしかった。もう一年も終わります。としをとると一年が早いといいますがその通りになってきました。ああ。(金)

**あ**けましておめでとうございませう。平成30年。日頃使う機会のない元号を今年ばかりかみ始めてみます。次の元号に変わると私は2時代前の人!? (川) **12**月に開催されたアジアン・チャリティー・フェスティバル。留学生と肩を組んで踊るJAFS会員のほほえましい姿に明日の日本を感じました。(裕)





▲部屋の壁には、英単語をぎっしりと書いたホワイトボードが。グローバル化の時代、タイの僧や見習い僧が英語を学ぶ。2017年、タイ、AFSランパン

◀表紙の写真「かやぶきの里」を訪れ、ガイドの説明を熱心に聞くアジア国際ネットワークセミナーの参加者たち。秋雨でしっとり濡れた屋根が美しい。2017年10月19日、京都府南丹市美山町。3〜8ページに特集記事



## 募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で  
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581

URL: <http://jafs.or.jp> E-mail: [asia@jafs.or.jp](mailto:asia@jafs.or.jp)

2018年1月 132号 発行人：萩尾千里 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：岩崎準一、大本和子、柿島裕、金井英夫

川本裕子、佐藤真子、永井博記

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社

